

# ホタル

時代が残した心の傷跡  
あなたに会えたから  
その痛みを越えて生きてこられた

高倉 健

田中裕子

夏八木 勲

水橋貴己

小澤征悦

高杉瑞穂

今井淑未

小林綾子

中井貴一

原田龍二

石橋蓮司

奈良岡朋子

井川比佐志

小林稔侍

監 督／降旗康男

「ホタル」製作委員会：東映 テレビ朝日 住友商事 角川書店 東北新社 日本出版販売 TOKYO FM 朝日新聞社 高倉プロモーション

製作／高岩 淡 企画／坂上 順 脚本／竹山 洋 降旗康男 撮影／木村大作 音楽／国吉良一 配給／東映

協力／鹿児島県 城山観光ホテル 日本エアシステム 薩摩酒造 垂水市漁業協同組合 韓国 安東市河回村

NOT FOR SALE





## 荒波に漂う一艘の小船のように、時代に翻弄されながらひたむきに生きる夫婦 21世紀を生きるすべての人に熱い勇気を贈る感動大作

### 解説

鹿児島島の南の果てに、互いに癒しきれない過去を背負いながら静かに生きる一組の男と女がいた。映画「ホタル」は幾つもの傷を心に負ったこの二人の出会いと運命を、やさしい眼差しで描き上げる感動巨編である。ひとつの時代が終わわり、新たな時代が動き始めた今だからこそ語り継ぎたい。想いがある99年に大ヒットした「鉄道員」の主演俳優とスタッフは、それぞれの想いを胸に再び顔を合わせた。

50年前の激動の日本を生きた人々が、新たな時代を前に、自らの生にどんな答えを見出すのか。寄り添いながら生きてきた夫婦は、どこへたどり着こうとしているのか。とても大きな、そして大切なテーマを、高倉健・田中裕子を始めとする充実のキャスト、監督・降旗康男、撮影監督・木村大作ほか最高のスタッフが、鹿児島湾、桜島、開聞岳や青森の八甲田山など、美しい日本の四季の移ろいを交えて丁寧かつ重厚に描き出す。物語のクライマックスは韓国の魂が息づく伝統の村・河回(ハフエ)の地に高倉・田中が立つロケーションを敢行。悲痛の過去を越え、新たな道を歩もうとする日韓両国の今後を予感させる、壮大なエンディングをフィルムに焼き付けた。

### 物語

桜島の頂に漏れ出す朝日を浴びた海に、漁船の上で黙々とカンパチの生簀に餌を撒き続ける男と、その姿を操舵室から見守る女がいた。男の名は山岡秀治、女は妻の知子。十四年前に腎臓を患い透析を続けている知子のために、山岡は沖合いでの漁をやめ養殖をはじめ「二人を乗せた漁船「とも丸」は子供がいない夫婦が我が子のように大切にしている船だった。

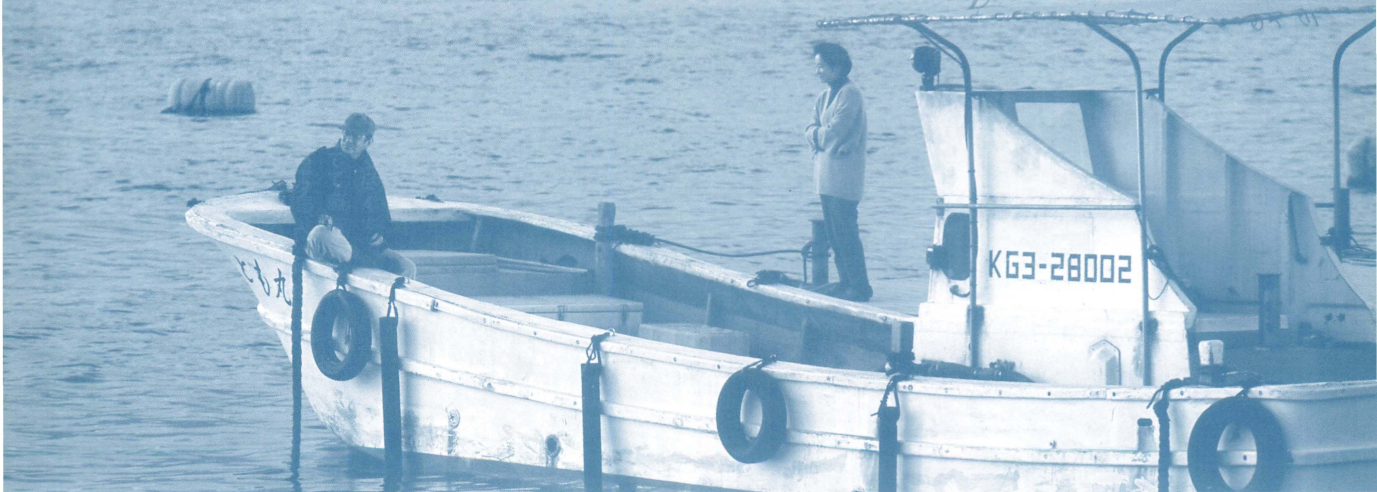
激動の「昭和」が終わる「平成」の世が始まったある日、藤枝という男が青森の冬山で亡くなったという知らせに山岡は愕然とする。山岡と藤枝はともに特攻隊の生き残りだった。昭和という時代の後を追う厳寒の雪山を独り歩む藤枝の姿が浮かび、山岡は唇をかみしめる。わずか一月前、故郷の青森から孫娘の真美を連れてはるばる鹿児島島の知覧へ来たが、山岡とは会わぬままだった藤枝。毎年冬になると美味しい林檎を送ってくれたあの男がなぜ。友の想いを痛いほど知っている山岡だったが、それでもそう問いかずにはいられなかった。

山岡が22歳の初夏。この鹿児島湾から幾つもの若く尊い命が、重い爆弾を抱えて飛び立った。永遠に帰れない片道飛行。

しかし山岡や藤枝のように、役目を果たせず様な想いを抱えたまま帰ってくる命もあった。そんな命の数々を見つめ続けた人物がいた。山本富子。若者達から愛をこめて「知覧の母」と呼ばれた女性である。

そして40数年後、山岡は富子からある頼みを受ける。体の自由が利かなくなった自分に代わって韓国へ行つてほしい。南の海に散っていた戦友・金山少尉の故郷が韓国だった。本名はキムソンジェ。知子の初恋の相手と、結婚を約束した男である。金山の遺品である故郷のお面飾りのついた財布を富子は山岡に手渡した。そして山岡は、金山からもう一つ大切なものを預かっていた。愛する知子と韓国にいる遺族への最期の言葉。特攻が特攻に託した伝わるはずのなかったあの日の言葉は、今もまだ山岡の胸の奥にあるのだった。

容態が次第に悪化していた知子が身の回りをすべて整理してあるのを知り立ち尽くす山岡。その山岡に宛てて藤枝が書いていたノートを、遥々届けに来た孫娘の真美。飛び立つ直前に見た金山の笑顔。幾つもの人々の想いが、山岡の背を押していた。いつしか山岡の心には男として、夫として、20世紀を生きた人として、ひとつの決意が芽生えていた。



# 5月26日(土)よりロードショー!

東西線木場駅イートーカドー3F・駐車場完備  
**109シネマズ木場**  
定員入替制 03(5683)0109